

芝浦工大柏 猛打快勝

夏 高校野球 県大会

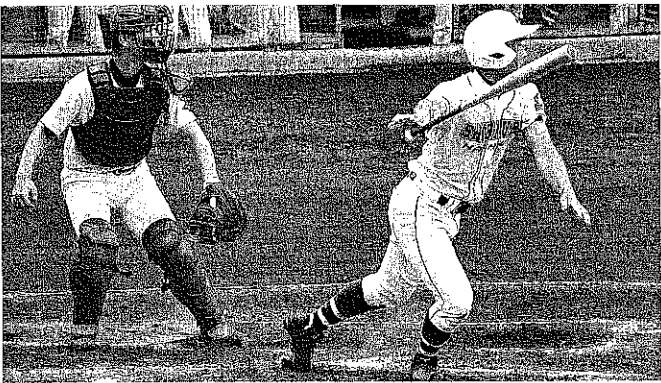
船橋市民

夏の高校野球県大会は13日、県野球場など10球場で1、2回戦28試合が行われた。拓大紅陵が順当に初戦を制し、1点差ゲームをものにした千葉北などとともに3回戦へ進んだ。夏の甲子園で優勝経験のある銚子商は柏南に逆転負けを喫し、初戦で敗退した。14日は、10球場で2回戦27試合が行われる。



検見川 継投で零封

降に得点を重ねた検見川が競り勝った。六回、北原の2点適時打で均衡を破ると、七回には浜がソロ本塁打を放った。投げては阿部、金田の継投で相手打線を零



芝浦工大柏 千城台 6安打を放つ活躍を見せた芝浦工大柏・小野(13日午前10時36分、青葉の森野球場)

封。磯辺は序盤に得点圏へ走者を進めたが得点できず、波に乗れなかった。

昨夏の悔い 一発に

①：検見川の主将、浜 遵洋選手(3年)が公式戦初の本塁打を放った。内角に来たボールを振り抜くと、打球は低い弾道でそのまま右翼席へ飛び込んだ。昨年の大会は自身が三振して最後の打者となり、先

投打かみ合い 完勝

3回一挙4点で逆転

青葉の森

芝浦工大柏 千城台は、芝浦工大柏が16安打の猛攻で快勝した。1点を追う三回、二死一、二塁から小野の2点タイムリーなどで4点を挙げて逆転。その後も着実に加点した。千城台は4番・松山が4打数4安打と気を吐いたが、後続が続かなかった。

輩の夏を終わらせた」と責任を感じていた。雪辱に向けて1年間練習を重ね、この日は3打数3安打の活躍。3番打者の役割をきっちり果たした。それでも、本人は「まだ借りは返せていない」。昨夏の悔しさを次戦にもぶつけるつもりだ。

野が下総打線を4安打に抑えた。下総は好機を広げられず、三塁を踏めなかった。

6年間の仲間と最後の夏



芝浦工大柏

6年リードで迎えた九回表の攻撃。この試合で6安打目となる適時打を放った小野元氣(3年)は、引き締まった顔で一塁塁上に立っていた。「このメンバーで絶対に勝つ」。6年間を共に過ごしたチームメイトとの戦いを一日でも長く続けるため、チームを慢心させないために表情を緩めなかった。

芝浦工大柏は、同大柏中学出身の生徒が多い。野球部も3年生9人のうち7人が、福田監督と中学の野球部から「なさい」と自ら考えて行動することを求めた。すると、選手たちは中学時代に学んだことを土台にして、自分たちで協議して練習内容を決めるようになった。福田監督は「格段に大人になりました」と選手たちの成長を感じ取っている。

そして、6年間共に過ごした仲間や監督と戦う最後の夏の大会が始まった。初戦は10得点で大勝したが、次戦の相手はAシードの東海大望洋。宮下は「自分たちのプレーを表現してぶつかるだけ」と、6年間の集大成となる一戦に無欲で挑もうとしている。(鈴木慎平)